

<603> 技術分野固有の授業運営のコツとは？

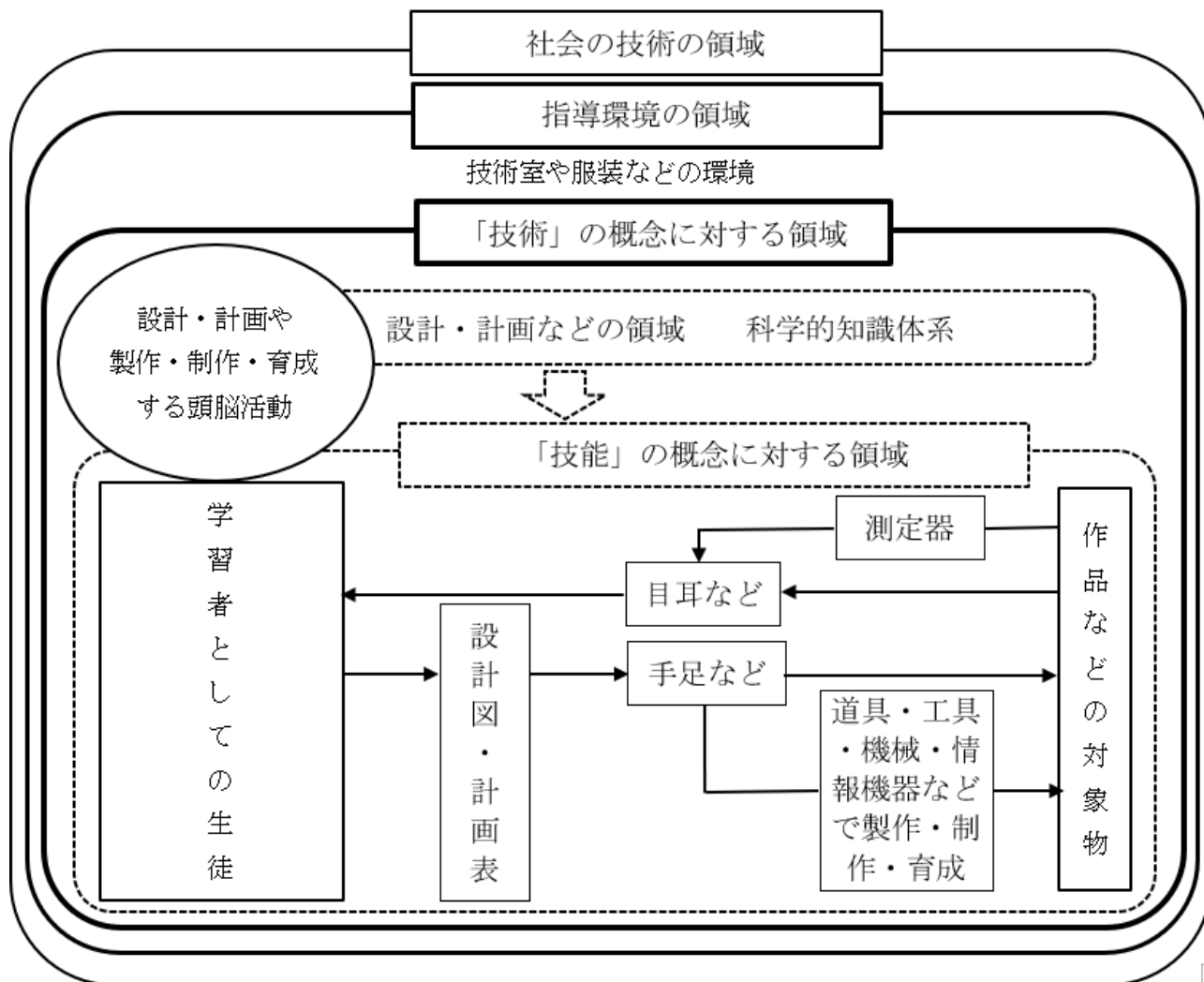
技術分野の授業運営には、下の資料に示す例のような「技術や技能の概念」を指導者として持つことは必須条件だと思います。自分なりの普遍的な「技術や技能の概念」をもつことで、技術を単なる手段としてだけでなく、将来の技術社会に対応できる学力を生徒に身につけさせることが出来るようになると思います。授業運営する基盤としての「技術や技能の概念」を掴むためにコツ例を参考にして、自分なりの「技術の概念」を見つめてはいかがでしょうか。

コツ例 1：対象物に働きかける技術と技能の違いを意識する。 →参考資料 1

コツ例 2：授業運営する服装などの間接的な「技術や技能」の指導環境に配慮する。 →参考資料 2

コツ例 3：新聞やテレビなどで話題になる日進月歩で進歩している技術に注目することも大切ですが、同時に大切にするのは、技術の根底にあり不易な「技術の概念」です。 →参考資料 3

資料：技術や技能の概念の例



参考資料1：「技術」の対象物とその手段としての「技能」

技術分野の内容	「技術」の対象物	技術の手段としての「技能」
A 材料と加工の技術	材料	加工の技能
B 生物育成の技術	生物体	道具や肥料など育成の技能
C エネルギー変換の技術	エネルギー	変換の技能
D 情報の技術	情報	情報手段の技能

参考資料2：間接的な指導環境に配慮する例

例：技術分野の授業は、作業できる服装で、学級担任の時は、背広などの職員室にいる服装で、学習指導の場面の違いで、面倒でも、服装を変えるようにしましょう。服装が学習指導に与える影響を、潜在的カリキュラム（ヒドゥンカリキュラム）といいます。

例：機械などの名称・安全に関する掲示物などの環境を整える。

例：授業は、準備→学習活動→片付け・清掃の時間を取るようにする。

例：出来れば、授業の時間割は同じ学年の曜日になるようお願いします。工具や材料などの準備が効率的になり、授業運営の能率がアップします。

参考資料3：「技術の概念」を見つめてみる視点の例

- 技術分野の「内容A～Dの技術」を「技術の概念」から見つめてみる。
- 技術の手段を使って、生活の問題を解決している技術を「技術の概念」から見つめてみる？
- 日常生活に存在する技術や社会や産業も含めた技術を「技術の概念」から見つめてみる。